

今回の「経済事情調査」によって、今すぐに留萌港と営口港の間に船が行き来し、貿易が始まるわけではありませんが、留萌市では、この調査報告を検討し、長期的な計画を立て、経済交流の実現をめざす予定です。

## 出発点は留萌港

川原 今回の調査は、留萌港と営口港を玄関口として、北海道と中国東北三省（遼寧省、吉林省、黒龍江省）の経済交流（貿易）の可能性を探るのが目的でした。

そのため、調査項目は、留萌港と背後企業の関わりを考え、「石炭」「木材（原木・チップ）」「住宅（家具含む）」「水産品」の4つに絞りました。

熊谷 ほかに、中国の港の施設や、日本から中国に貨物を持って行った場合、どんな風に消費者の手に渡るのか？中国から日本に持ってくる貨物にはどんなものがあるのか？ その貨物は、どんな風に日本の港に着くのか？ を調べました。

その結果、北海道（留萌港）と中国（営口港）とが貿易するための課題を見つけ、その解決策を考えることで、貿易によって留萌が豊かになる方策を立てることができるとは思っています。

## 営口港は中国で12番

川原 留萌港では、上川地方や北空知地方の企業に、日本国内の石油製品、セメント、原木、石炭、重油などの生活関連物資や産業原材料を主に供給しています。

営口港も中国国内の物資が主で、東北三省で生産される金属製品（巻き鋼板、鉄筋）、非金属類（滑石、マグネシ



▲営口新港のコンテナバース。1年間で20フィートコンテナをおよそ15万個積み卸します。

ウム）、とうもろこしなどを積み出し、逆に鉄鉱石、石炭、石油製品を受け入れています。

コンテナも年間15万TEUの取り扱いはあり、これも中国国内のコンテナが大半を占めます。

（※TEU＝コンテナは大きさがさまざまのため、20フィートの長さのコンテナに換算したとき、コンテナ何個分になるかという単位）

熊谷 営口港の貨物取扱量（貨物を港で積み卸した量）はおよそ2,200万トン（2000年実績）で、中国の港の中では、12位です。ちなみに、留萌港は、だいたい200万トンです。

中国の港は24時間作業を行っているため、いつも荷物の積み卸しを行う作業員の人々や運送のトラックや列車などで大変活気があります。

営口港務局は、2つの仕事をしています。一つ目は、中央政府に属する港の管理機関として港を管理する仕事、二つ目は、自分たち（港務局）の収入を稼ぐための企業としての仕事です。

企業としての港務局は、船の手配や積み卸し作業、内陸へのトラック・鉄道の輸送の手配などを行い、その手数料により収入を得ています。

最近、中国の海沿いの地域に見られるように営口の開発区でも、外国の企業の進出が盛んです。

製造業を中心に、韓国、アメリカ、日本、シンガポールなどの企業が数多く進出してきます。日本の企業も7社進出してきます。

こうした外国の企業が中国にもたらす資本と技術が、中国の人口の多さからくる人件費の安さ（港で手作業で荷物を積み卸す人たちの月収は、なんと約1万5千円！）と合わさって、中国の今の経済発展を支えているという現実を実感できました。

## もつと中国を知ろう！

川原 この調査を終えて感じたことをまとめてみます。まず、中国でビジネス展開を図る際に注意すべきこと、①仕事のきつかけは人脈作りから②重要な契約なども酒宴の席で決まる③会話を重ねることで相手の値踏みをする（出身地、地位など）



▲人口500万人を越える大都市・大連。まだ戦前の街並が残っています。最近では経済発展が目覚ましい都市です。

次に、今後、留萌市が取り組むべき課題は、

- ①中国語の語学力（調査、交渉はまず語学から）
  - ②貿易関連の能力（経済・貿易・国内流通・卸しなどの実態把握）
  - ③もつと中国を知ること（歴史・文化・習慣などの学習）
- 今後は、留萌と営口との交流を深めるためにも多くの市民が中国に関心を

持ち、より多くの知識（言葉、文化、習慣、経済等）を蓄積することで、友好の枠を越えた「経済交流の芽」を大きく育てていくことができると思います。

熊谷 これからの日本にとって、12億という人口を抱える中国を無視することはできないと思います。

今、大きく経済発展している中国の力を、貿易を通じて、留萌港から引き入れて、北海道、ひいては日本に広げていくことが、今の経済状況を建て直す一つの有効な方法と考えるべき時代になってきたと思います。

そのためには、先ほどの課題に地道に取り組むという、根気強い作業が、実は経済交流を実際に行う一番の早道であると考えます。

市民のみなさんが、中国を少しでも身近に感じられるように、わたしたちもあらゆる機会に、この6カ月の経験を伝えていきたいと思っています。

特に将来は若い人たちが、どんどん中国の若い人たちと一緒に仕事をできるようにになっていけばと願っています！

二人 謝辞（シーエー）！

## 中国のこともつと知りたい！

中国のこと、経済交流のことなど、二人から聞いてみませんか？  
ご希望の方（グループ・団体）は、企画課国際交流担当（益田）まで、お申し込みください。  
☎42・1801内線293



港湾課 川原 秀紀さん



港湾課 熊谷 治範さん

## 留萌市職員中国派遣報告

## 第2部『留萌港と営口港を結ぶ！』

～ 経済事情レポート ～